

記入欄

1	計画名称	超精密フォーメーションフライト実証機SILVIA
2	代表者名	船木 一幸（文責: 阿久津 智忠）
3	代表者所属	JAXA
4	関連する主な研究者コミュニティ名（あれば）	Formation-flight working group、JGWC、光赤天連
5	現在の計画のステータス	JAXA/ISAS PrePhase A2/公募型小型5号機ダウンセクション候補の1つに選定後、採択見送り。6号機にむけて継続中。
6	第5期中期計画期間中(2028-2033年度)の予想されるステータス	EMおよびFMの設計、製造、動作検証、打ち上げ（以下の線表参照）
7	計画のScience Goal（計画の核心をなす学術的問い）	将来スペース重力波ミッション、ならびに赤外干渉計ミッションのための衛星編隊飛行技術の実証
8	計画のScientific objectives（計画の研究目的）	理工連携により、宇宙機による分散型プラットフォームの構築技術の獲得を目指す。この圧倒的な技術革新により、従来の一体型プラットフォームでは実現不可能なサイズの大規模観測機器についても、実現可能な段階に入ったというコンセンサスを形成する。将来的に大規模観測機器（重力波ミッションB-DECIGOや赤外干渉計ミッションLIFEなど）の構築につなげる。
9	計画が実施するScience investigations（何をどこまで明らかにしようとするか）	100 m 程度離して編隊飛行させた3機の宇宙機どうしで構築する分散型プラットフォームのプロトタイプの軌道上実証。具体的には、(a) レーザー干渉計測による宇宙機どうしのサブミクロン精度での相対変位の制御の実証、および (b) そのように構築したプラットフォームの上に構築した、光赤外干渉計プロトタイプによる天体観測可能性の実証（こちらは検討中）。(a)は将来の宇宙重力波望遠鏡の構築に必須なプラットフォーム実証も兼ねる。編隊の組み替えの自在性も示す。
10	計画の実施期間（既存の計画の場合は過去の期間も含む）	～FY2032(TBD)
11	計画全体の予算規模（総額、もしくは年度毎の額）	
12	上記の中で期待する国立天文台の資金（総額、もしくは年度毎の額）	
13	国立天文台に期待する役割	干渉計開発（先端技術センター等）
14	資金調達方針（5種類から数字で選択）	4, 2, 5
	1. 既存の大規模学術フロンティア促進事業費,	
	2. 運営費交付金（既存計画、新規計画の検討活動・基礎的開発を含む）,	
	3. 新規 大規模学術フロンティア促進事業への提案,	
	4. 国立天文台以外の実施機関(たとえば大学や JAXA 宇宙研)予算,	
	5. 外部資金あるいは競争的資金	
15	実施期間にわたる計画の簡単な線表（画像を添付）	